

# 四明会たより

京都大学農学部四明會 2017年8月発行

## ごあいさつ

四明會会長 繩田 栄治  
(農学研究科長・農学部長)

四明會会員の皆様には、ますますご健勝のことと存じます。本会の活動に対する日頃からのご支援ご協力に、改めて感謝申し上げます。私は、宮川前研究科長の後を継ぎ、この4月から研究科長・学部長を拝命致しました。どうぞ宜しく願い致します。

さて、四明會は本年も学部306名、大学院修士課程320名、博士後期課程57名の新会員を迎えました。本年は、第3期中期目標・中期計画期間の2年目に当たります。

昨年は、農場移転や学域・学系制度の導入など、本研究科・学部にとって大きなできごとが続きました。特に移転した木津農場は、皆様の大きな支援を頂き、非常に立派な施設へと生まれ変わりました。木津農場の詳細については、昨年度、宮川前研究科長から紹介されている通りですが、新たに「次世代の農と食とエネルギーを創るグリーンエネルギーファーム教育拠点」として、文部科学省の教育共同利用拠点に認定されました。新しく整備された宿泊施設を活用して、全国の大学及び高等専門学校が、京都大学の学生と同等・同質の条件で京大

農場が提供する共同利用の実習等を受講することができるようになり、既に複数の大学が利用しています。また、今年度から、社会人を対象として、農業と農学に関する基礎的知識と最新情報の学習及び農作物生産の基礎的技術取得を目的とした履修プログラム「農業と農学の最前線 一次世代農業マイスター育成プログラム」を開始しています。4月15日に開講し、12月までの間、夏休み期間を除く隔週の土曜日に、実習と講義を通じて、社会人の受講生が最新の農業技術について学ぶプログラムです。今年度の受講生は21名で、新たな試みとして、木津農場の発展に寄与すると期待されています。本学は、これまで関西学術文化研究都市（けいはんな学研都市）の発展にソフト面では大いに貢献してきましたが、ハード面、即ち実際の研究機関の進出という点では、少し遅れをとっていました。木津農場の進出により、本格的に研究都市の発展に寄与できるようになったことは、まことに喜ばしいと思っています。

近年、大学の国際化が喧しく伝えられています。地球の将来に関わる様々な問題を解決するため、あるいは解決に寄与する人材を育成するために、国際化は必要かつ重要だと思いますし、あまり本質的なことではないですが、世間や政府が気にする大学ランキングを上げるためにも、国際化は不可欠です。そのなかでも、学生交流の促進は重要だと思います。最近の日本人学生は海外に行きたがらないと言われるそうですが、本研究科・学部の学生は、本学の中でも国際交流に熱心で、本学が提供する短期の国際交流プログラムにも、数多くの学生が積極的に参加していますし、中長期の交換留学プログラムにも、多くの学生が協定大学に留学しています。学部の1・2回生が参加し、2週間程度の海外研修旅行を教員が引率して実施する国際交流科目は、今年度からILASセミナー（海外）へと衣替えしました。本研究科・学部は、中国・タイ・フランスのプログラムを提供しており、全部局で最大の数です。また、その他にも地球環境学堂（ベトナム）及び東南アジア地域研究研究所（ブータン）が提供しているプログラムも、実際には農学系の教員が引率・実施しています。農学系の教員が引率するプログラムが多いせいか、毎年農学部の学生が



## 会費納入のお願い

平成29年度(29年4月～30年3月)四明會年会費1,500円を同封の払込取扱票で納入下さるようお願いいたします。

60歳以上の方でご希望される場合は終身会費(2万円)の制度もございます。どうぞご利用下さい。

京都大学農学部四明會事務局  
606-8502 京都市左京区北白川追分町

## 「四明会たより」への寄稿

「四明会たより」を年1回発行しております。今後も紙面の充実を図りたいと考えております。各地域や各学年における同窓会の活動を会員の皆様にご紹介したいと考えておりますのでご寄稿をお待ちしております。

(締切随時、400字程度、写真があれば添えて下さい)

E-mail : shimei@kais.kyoto-u.ac.jp

数多く受講しています。このように、低学年から国際交流を経験させることにより、より長期の留学につながる戦略は、今の所成功しており、実際に短期のプログラムに参加した学生の多くが、高学年で交換留学に行ったり、海外でのフィールド研究、国際共同研究に従事したりしています。また、本研究科では、数年前から東南アジアのいくつかの大学と修士課程のダブルディグリープログラムを実施しています。このプログラムに参加すると、3年間で本研究科と協定締結大学との両方から修士の学位を授与されます。ガジャマダ大学とのプログラムに参加し、この3月に修了した本研究科の最初のプログラム修了生は、得難い体験だったと言っています。学生た

ちのこのような声を聞くと、負担は結構あるのですが、今後も学生交流を進めるべきだと思いますし、本研究科・学部としても支援していきたいと思います。

ご存知の通り、国立大学は非常に厳しい状況にあります。毎年のように運営費交付金が減っていく中で、中期目標・中期計画の着実な実施が求められています。木津農場のより一層の充実や国際交流の促進だけでなく、その他の活動も着実に実施し、より充実させていかなければなりません。四明会会員の皆様には、日頃からご協力いただき、本当に感謝しております。今後、より一層支援して頂きますよう、心からお願い申し上げます。

## 同窓会たより

### ◎農学科 (KND)

KNDならびにゆりの木会の皆様におかれましては、時下ますますの御健勝のこととお慶び申し上げます。ゆりの木会は4月20日に本校吉田キャンパスにて恒例の新生歓迎会を行い、今年も多くの新入生を迎えて大いに盛り上がりました。6月28日には高槻農場より移転後二年目となる木津新農場にて、例年の田植え会および「早苗饗」の名を持つ親睦会（バーベキュー）が催され、学生・教員問わず汗を流して楽しい時間を過ごしました。

この一年間、雑草学研究室では、岩上哲史助教が着任されました。また、平成28年3月をもって植物生産管理学研究室の河井崇先生が岡山大学農学部へ転出されました。

最後になりましたが、会員の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げますとともに、今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

(赤木剛士)

### ◎林学科 (クローネ会)

クローネ会のみなさまにおかれましては、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平成28年度の森林科学専攻（旧林学科）における教員の異動は退職・着任ともにありませんでした。

平成28年度の森林科学公開講座は10月15日に「森林研究・木材研究の最前線」のテーマで行われました。前半では、遺伝子分析を活用した生物多様性の保全に関する内容とマイクロ・マクロそれぞれの視点から木材構造の分析と利用について検討する内容といった大きく異なる3つのミニレクチャーが行われ、後半では、森林・山地でのフィールドワークや、材料分析などのラボワークといった最新の研究活動が行われている4つのラボをめぐるラボ見学が行われました。森林公開講座は一般市民を対象に宇治の生存圏研究所と農学部キャンパスで一年ごとに交互に開催され、今年度は農学部キャンパスで開催されました。

末筆ながら、今後のみなさまのますますのご健勝とご活躍をこころよりお祈り申し上げます。

(中川 光)

### ◎農芸化学科・応用生命科学科（専攻）（六成会）

六成会の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。本会は旧農林化学科の流れをくむ同窓会で、現在、農学部応用生命科学科（農学研究科応用生命科学専攻）の11研究室（細胞生化学、生体高分子化学、生物調節化学、化学生態学、植物栄養学、エネルギー変換細胞学、発酵生理及び醸造学、制御発酵学、生体機能化学、生物機能制御化学、応用構造生物学）と生命科学研究所の2研究室（分子細胞育種学、植物分子生物学）、応用生命科学専攻の7研究室（分子生体触媒化学、分子微生物科学、森林圏遺伝子統御学、森林代謝機能化学、木質バイオマス変換化学、農学研究科寄付講座「産業微生物学」、学際融合教育研究センター「生理化学研究ユニット」）で構成されています。

平成29年度は学部1回生として48名（うち留学生1名）、修士1回生64名、博士1回生として15名を迎えました。教員の異動では、制御発酵学分野の寶関淳先生が京都学園大学の准教授に、産業微生物学寄附講座の日比慎先生が富山県立大学の准教授に、それぞれ着任されました。また学際融合センター特任助教に、永田紅先生および小段篤史先生が、それぞれ、平成29年1月および4月に着任されました。

一方、分子生体触媒化学分野 平竹 潤 教授が平成28年7月に急逝されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

六成会の恒例行事である予饗会は平成29年2月13日（月）に百周年時計台記念館国際交流ホールにおいて盛大に開催されました。また、平成28年度も、春季・秋季とソフトボール大会が開催され、春季は生体高分子化学、秋季、平成29年度の春季は制御発酵学が優勝して連覇しました。また、六成会のもう一つの恒例行事として、新生歓迎会を平成29年4月7日（金）の入学式当日のガイダンス終了後に医学部構内の南部食堂にて開催しました。六成会の動向や活動の様子はホームページ（<http://www.rikuseikai.kais.kyoto-u.ac.jp/>）でも紹介しておりますので、是非ご覧ください。今後とも、六成会へのご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

四明会名簿は隔年発行のため本年度は発行されませんが、会員の住所等の変更については各分野で調査を進めておりま

す。お知り合いの方の近況をご存知でしたらご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが会員の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

(阪井康能)

### ◎農林生物学科 (南窓会)

南窓会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

今年3月で昆虫生理学研究室助教の福井昌夫先生が定年退職されました。長年に渡り旧農林生物学科・専攻および資源生物科学科・応用生物学専攻の発展のために多大の貢献をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。これに伴い、6月1日付けで、大出高広先生が助教として着任されました。大出先生は名古屋大学大学院生命農学研究科で学位を取得され、その後New York University School of Medicineにて学振特別研究員として、また基礎生物学研究所進化発生研究部門の研究員、助教として勤められました新進気鋭の研究者です。

南窓会の活動休止に伴い、旧農林生物学科の研究室間の交流が少なくなっていたのですが、この9月に新たな試みとして、植物遺伝学研究室と栽培植物起原学研究室と植物病理学研究室の植物系3研究室で研究情報交換会を開催することが決まりました。教員と学生が一同に会し、主に修士課程の学生達が発表し、質疑応答を行う予定です。情報交換とともに互いの交流を深める貴重な機会になるものと楽しみにしております。学生達もこれに向けて気合いを入れて研究に取り組んでいるようです。

会員の皆様には、お近くにお立ち寄りの際にはどうぞお気軽に研究室にお立ち寄り下さい。末筆になりましたが、会員の皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念いたしております。

(海道真典)

### ◎地域環境工学科 (洛水会) (旧農業工学科、旧農林工学科)

梅雨の晴れ間の洛中洛外に夏の陽ざしが感じられ、洛水に映る青紅葉も色濃くなる季節となりました。四明会会員のみなさまにおかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。本年度、洛水会会長を務めさせて頂いております川島茂人と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。洛水会は、5月29日に平成29年度の総会ならびに懇親会を開催いたしました。事業および会計などに関する議事のあと、国際協力機構の田中卓二会員と日立造船の大地佐智子会員に、それぞれ「千の丘の国・ルワンダで考えたこと～ JICA灌漑アドバイザーとしての3年間～」と、「水と歩む—私のキャリア」と題してご講演を行っていただきました。講演後、田中卓二会員が作詞作曲した「紀の川のほとりで」を、生演奏で熱唱していただくという感動的な企画もあり、今年の講演会はとても楽しく盛会のうちに終わりました。懇親会は、時計台記念館にあるフレンチレストラン「ラトゥール」において、開催されました。丸山利輔先生よりご挨拶と乾杯のご発声を頂きました後、和やかな雰囲気の中、旧知をあたためる方、新たな出会いとなる方

など、皆様の親交を深める場を持つことができました。

われわれ洛水会も他の多くの同窓会と同様に、会としての会計収支が厳しくなるなか、何とか会員相互の交流事業を継続していくための方策について、数年をかけて検討してきました。その検討結果を受けて、先日の総会において、会員名簿の発行を四明会にならって隔年の発行にすることが議決されました。名簿発行と送付は隔年としますが、毎年の更新部分や新しい情報などは、これまで通り、毎年、会員の皆様にお送りすることになっています。隔年発行のタイミングは、毎年の情報のある程度補完できるように、四明会が名簿を発行するタイミングと交互にする予定です。今後とも四明会と洛水会は協力連携を保ちながら、持続的に発展していければありがたいと考えています。

最後になりましたが、四明会会員の皆様方のご健康とご活躍を心より祈念いたします。

(川島茂人)

### ◎農林経済学科 (洛友会)

洛友会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

まず、昨年の四明会たよりからの当専攻における教職員の異動等について、順を追って報告させていただきます。本年3月1日付で、Hart Nadav Feuer (ハート・ナダヴ・フォイヤー)氏が専任講師として着任しました。Feuer氏はすでにスーパーグローバル大学事業の特定助教として、当専攻の国際化に関わる教育研究に従事しておられましたが、この度、再配置定員措置にともなう外国人教員として、正規に当専攻に所属することになりました。また、同じ時期にイギリスに在外研究員として滞在されていた森林経済政策学分野の三谷羊平准教授が帰国されました。本年3月31日で農業食料組織経営学分野教授の新山陽子氏が定年退職されました。新山氏はその後、立命館大学に移られ、教育研究に従事されています。「農林水産統計デジタルアーカイブ」寄附講座の吉田嘉雄准教授、池田瑞穂助教が本年3月に退職されるとともに、4月には山口幸三准教授が、5月には三重遷一助教が着任されました。さらに、本年7月1日付で辻村英之氏が農業食料組織経営学分野の教授に昇任されました。なお、「農林水産統計デジタルアーカイブ」寄附講座・寄附者で北海道の「神内ファーム21」代表の神内良一様(消費者金融会社「プロミス」創業者、元会長)が本年6月27日にご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

生物資源経済学専攻および洛友会では、会員の皆様が一層、専攻(教室)の現在の姿に接していただく機会を増やすために、以下の要領で全学のホームカミングデーに合わせた催しを企画しています。

「京大に帰ろう、農・食・環境研究の今を知ろう：  
生物資源経済学専攻・洛友会ホームカミングデー」

日 時：2017年11月3日(金・祝) 午前10時から16時

場 所：農学研究科/農学部総合館E217(会議室1)

企 画：専攻教員等の研究成果の展示、現任教員による解説

大先輩の卒業生の皆さまも、若い卒業生の皆さまもごぞって「里帰り」していただけることを心よりお待ちしております。

最後に、会員の皆様には同窓生としての連携をますます密にさせていただき、洛友会の発展にご協力賜りますようお願い申し上げますとともに、専攻（教室）への変わらぬご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

（秋津元輝）

#### ◎水産学科（緑洋会）

緑洋会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝の御事とお喜び申し上げます。

さて水産学科は昭和22年（1947年）6月に創立され、今年6月で70年となりました。これを記念して平成29年6月24日（土）に緑洋会主催の祝賀会を京都大学百周年時計台記念館国際交流ホールで開催いたしました。カラ梅雨のお陰で心配していた天候にも恵まれ、総勢160名の同窓生が集まりました（写真）。

水産学科創立当時のエピソードを、その時に舞鶴で生活されていた大先輩から直接伺える、大変貴重なひとときでした。

緑洋会会員各位のますますの発展を祈念しつつ、次に集まれる機会を楽しみにしています。

（荒井修亮）

#### ◎林産工学科（ユナリグナ）

ユナリグナの会員および会友の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年度夏以降の旧林産工学科関係の人事ですが、特にございませんでした。

さて、同窓会活動に関しましては、学科再編などの影響をうけ、「ユナリグナだより」の発行もここ10年ばかり止まった状態で、「ユナリグナ」としての活動は停滞気味ですが、一方で、「東京ユナリグナ」、「関西ユナリグナ」がそれぞれ2年に1度交互に開催されることとなり、同窓生の交流の場が定着してきました。

また、私自身が管理者となっております「ユナリグナ」のホームページ（URL: <http://h3news1.kais.kyoto-u.ac.jp/users/yanase/HP/index.html>）につきましても、「東京ユナリグナ」と「関西ユナリグナ」の開催情報などをできる限り更新していきたいと考えておりますので、ぜひご覧ください。

最後になりましたが、会員および会友の皆様からの一層のご支援とご協力をお願いしますとともに、皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

（築瀬佳之）

#### ◎食品工学科・食品生物科学科（専攻）（中陽会）

中陽会の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。本年3月24日に学部・専攻修了生の歓送会が楽友会館において開催され、食品生物科学科4回生38名、食品生物科学専攻修士課程30名、同博士後期課程3名の新しい門出を祝いました。一方で、本年4月7日に同じく楽友会館において中陽会総会を開催するとともに、新入生の歓迎会を開催しました。新たに食品生物科学科1回生34名、食品生物科学専攻修士課程35名、同博士後期課程2名を迎えることができました。いずれの会も盛況で、学生と教職員の親睦を深める大変良い機会となりました。特に、若い感性と活力をもつ新しい力が加わることは、中陽会の伝統を更に発展させる上で、大きな喜びであります。

教職員の異動もこの一年間で複数ございました。まず、本年3月31日をもって、農産製造学分野教授の安達修二先生が定年退職いたしました。また、昨年10月1日付けで食環境学分野助教として小川剛伸先生、3月1日付けで食品分子機能学分野助教として高橋春弥先生が採用されております。さらに、2014年1月に共同研究講座として発足した「カゴメ」トマトディスプレイ講座が本年3月31日をもって終了致しました。それに伴い、柴田大輔特任教授が任期満了により退職され、荒武特定准教授は任期満了し、新たに食品分子機能学分野特定准教授として4月1日付けで就任致しました。新たな体制となり、教育・研究の更なる発展に日々努力しているところであります。

教育研究機関をはじめ、各界でご活躍の会員の方々と情報・親睦を深める組織としての中陽会をますます発展させていくため、今後とも会員皆さまの格別なるご支援とご協力、そしてご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願いいたします。末筆になりましたが、皆さまの益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

（後藤 剛）



水産学科創立70年祝賀会

### ◎畜産学科（はくび会）

はくび会、かすみ会、カトレア会の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。応用動物系（旧畜産学科）の分野一同、元気に研究・教育に励んでいます。以下は、本年度はくび会副会長の岡田直樹君（動物栄養科学分野：修士2回生）からの活動報告です。

昨年度の活動としては、平成29年3月23日にははくび会の総会を開きました。総会後に応用動物系5分野（動物遺伝育種学・生殖生物学・動物栄養科学・生体機構学・畜産資源学）卒業生・修了生のための送別会が開催されました。5月15日から30日にかけて毎年恒例のソフトボール大会が開催されました。優勝は、生体機構学研究室でした。11月にはNF前夜祭への出店を予定しています。ぜひともお立ち寄りください。また、はくび会では農場を利用し野菜栽培をしています。今年もおいしい野菜をたくさん収穫することができました。はくび会ホームページ（<http://www.hakubikai.kais.kyoto-u.ac.jp/>）も随時更新していきますのであわせてご覧ください。

応用動物系5分野は農学部総合館北東部の2階から4階にかけて居を構えています。お近くにお越しの節は、お気軽にお立ち寄り下さると幸いです。

（舟場正幸）

### ◎熱帯農学専攻（熱田会）

熱田会のみなさまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

むし暑い日が続きます。梅雨になり、四明会の原稿を依頼されますと、今年ももうこんな季節になったのかと思います（これを書いているのは7月3日です）。そしてそれは来年もまた繰り返されるのでしょうか。熱田会には新しいメンバーが入ることはなく、この担当も変わることはなさそうです。こうして熱田会は縮小していますが、熱帯は発展し、もはやの地などと呼ばれることもなくなりました。熱帯でもしだいに温帯と同じようなやり方で農業をするようになって、そのまま熱帯農学の領域も縮小していくのでしょうか。

今朝の天気予報によりますと、今日は気温が35度にまでなるそうで、京都市の熱中症指数は「危険」のレベルです（とりあえず水飲んでおきましょう）。7月上旬で35度は高いですが、これが温暖化の影響かどうかは正直よく分かりませんね。たぶん今日だけでしょう。ただ、氷河がどんどん小さくなっているなどという話を聞けば、全体として地球が暖かくなってきているように思いますし、このままいくと、今まで熱帯ではなかったところも熱帯になってゆくかもしれません。そして、それはどんどん拡大して、もしかして全地球的に熱帯になって、どこでも熱帯農業をやる時代が来るかもしれません。そうなったらもう、熱帯農業とは呼ばないかもしれませんけれど。。。

会員のみなさまのますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

（樋口浩和）

## 四明會活動報告及び決算・予算報告

### 京大農学部卒業50周年記念同期生会（昭和41年卒業）

#### はじめに

去る平成28年11月4日に四明会の50周年記念同期生会が開催されました。京都大学のホームカミングデイにあわせて四明会主宰による50周年記念同期生会が開催されるのが最近の恒例になっているようで、四明会事務局から連絡があり学科ごとに世話人が選ばれて準備をすることになりました。私は農業工学科の世話人になりましたが、世話人会を所用で欠席したために「四明会たより」に同期会の報告をする役目になりました。卒業以来会っていない友人や、日頃からよく会っている友人など、様々な同級生にお会いできる良い機会を提供いただいたと思います。改めて毎年このような機会を準備いただいている四明会会長を始め事務局の方々のご苦勞に感謝します。すばらしい機会だと思しますので、今後も維持していただけることを期待しています。

#### 卒業後の歩み

さて、京大を卒業して早50年になります。私どもが大学へ入学した昭和37年というのは農業基本法が制定された昭和36年翌年で、高度成長によって農業のみならずわが国の社会全体が大きく変わり始めた時に当たります。とりわけ農業と農村の近代化

はわが国の成長に大きな役割を果たしました。とくにそれを支えたのは農学部であり、農林経済学科と農業工学科の入学定員が大幅に増加し、その後林産工学科の設置（昭和40）、食品工学科の設置（昭和42）、畜産学科の設置（昭和47）と次々と入学定員が増加するとともに、学部そのものが大きく発展した時期に当たります。学生の私どもが知るよしもなかったのですが、講義される先生方の熱い思いを何となく違和感を持って受け止めていたことを思い起こします。農業の近代化、都市の急拡大、それに引き継ぎ農村の近代化など、今から考えると何とも羨ましいような高度成長の時代ではなかったかと思えます。それだけにいわゆる農業分野のみならず社会で広く活躍された方も多く、今回ご出席されたシャープの町田さんなど、専門分野に関わらず活躍された方も多かったように思います。各学科の出席者の顔ぶれにもそれぞれの専門分野の50年間の状況を反映しているなと思い巡らせたのは私だけだったのでしょうか。

#### 式典

さて、式典はその日の午前中に旧演習林会議室で開催されました。四明会副会長の加納教授の開会の挨拶、世話人代表の田中先生（水産学科）の挨拶、四明会の会長の代理である副研究

科長の村上教授の挨拶などが続きました。大きな出来事として本年6月に農場が京都府木津市に移転したことが報告されました。私たちが慣れ親しんだ高槻農場が新しい形に再編され、京都大学の農学研究科・農学部のこれからのビジョンがその中に込められていることの説明を受けたのが印象的でした。その後大学の学内見学がもたれました。

#### 懇親会

式典の後、会場をアピカルイン京都へ移して懇親会がもたれました。その前に全員の記念写真を撮りましたが、この後に載っていると思います。懇親会では農学科の代表の山下さんが司会と進行を担当されました。それぞれの学科紹介が行われました。ほとんどの学科は出席者の紹介と、それぞれ個人の思い出が中心となったもので、大変興味深いお話をお伺いすることができました。詳細は省略させていただきますが、それぞれの人生を振り返った興味深いものでした。

#### 懇親会后

四明会の記念式典・懇親会以後、折角京都へ集まったのだからと、学科ごとに様々な集まりが準備されていたようです。農学科、林学科・林産工学科、農業工学科、水産学科など、個別に把握している各学科の状況を報告させていただきます。

農学科:4日夕17時半から農学科のパーティーを銀閣寺近くの「白水園」で持ちました。18人が集まりました。写真を取り20時頃まで歓談しました。今回の盛会は関東方面から畜産関係の諸兄が殆ど参集されたことによります。3年後(2年後になるかも?)に次回を開催との話が出ました。

(山下研介)

林学科・林産工学科:日時:11月4日、午後5時～7時 場所:銀座ライオン京都四条烏丸店 当日、林学科同窓会(二次会)を持ちました。参加人数:9名。その他:四明会に出席の10名に案内をだし、うち9名が出席でした。また、参考までに、林学科の前の同窓会は10年前です。

(野淵 正)

農業工学科:18人が参加して同日の夕刻から翌日にかけて、幹事の一人である鳥井さんが理事を務めておられる関西セミナーハウス(修学院離宮の隣)の会議場で、夕食をともにしながら参加者の近況の報告をいただきました。一部の人は、あらかじめ準備してきたパワーポイントのスライドを用いて説明を行い、学生時代の思い出から近況報告まで様々な話を聞かせていただきました。その後も場所を宿泊予定の和室に変えて、夜遅くまで語り明かしました。翌朝は流れ解散となりましたが、大半はセミナーハウス内の茶室で本格的なお手前をいただくことができました。多分この様な大々的なクラス会はこれからできないだろうと思いつつ、来年も有志だけでも集まろうという声もちらほら聞こえました。

(三野 徹)

水産学科:11月3日(木)夕方から4日(金)の朝まで、宇治市の花やしき浮舟園に11名が集まり、5年ぶりのクラス会(卒業年次ではなく、入学年次(昭和37年)の同期生18名に呼びかけました)を開催しました。この間なくなった2名の同級生のご冥福を祈りながら、旧交を深めました。私たちの時代には水産学科は舞鶴市にあり、3年生になると全員舞鶴に移り、水産学科らしく海のすぐそばで学びました。これまで3回のクラス会は舞鶴で開催して来ましたが、今回は農学部50周年記念同期会が京都で開催されるのに併せて、初めて舞鶴以外での開催となりました。当日は、学生時代の手作りの帆船でのクルージングや寒中水泳の写真などを見ながら歓談しました。それぞれに健康維持に工夫され、人生を楽しんでおられる様子をお互いに確認できました。次回は間隔を短くして開催できればと願っています。

(田中 克)

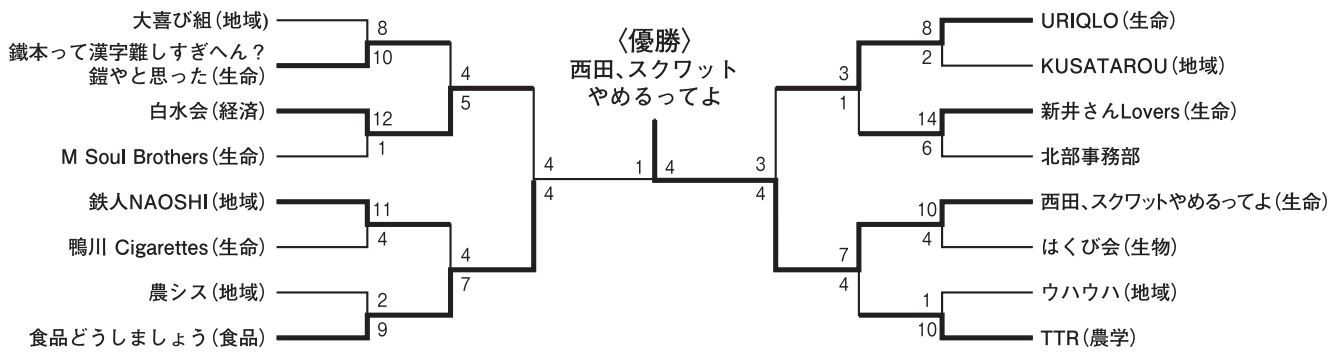
#### おわりに

久しぶりに同期生にお会いし、楽しいひとときを持つことができました。この様な会を持つことができたのも四明会事務局の山下さんと三田さんのお陰だと思います。有り難うございました。来年も50年会を盛り上げて下さい。

(農業工学科 三野 徹)



# 平成28年度 四明会主催農学部ソフトボール大会結果報告



農学→農学専攻  
生命→応用生命科学専攻

生物→応用生物科学専攻  
地域→地域環境科学専攻

経済→生物資源経済学専攻  
食品→食品生物科学専攻

## 優勝チームキャプテンからのメッセージ

「未だに信じられへん」試合後にエースの口から漏れた言葉です。チーム・西田、スクワットやめるってよは応用生命科学科の学年も研究室も違う人々で構成されています。私自身、面識のないチームメイトが多く、初めは緊張して戸惑うこともありましたが、しかし、試合や練習を重ねるにつれて一人一人と話す機会も増え、チームとして



の力をつけていきました。さらに皆が懸命にプレーをして、勝利の喜びを共有することで絆を深めることができましたと思います。

また、チーム間での交流も活発に行われ、試合を通じて研究室・学科を超えたつながりができました。このソフトボール大会を通じて得られた仲間や経験は学生生活の大きな財産となることでしょう。

最後になりましたが、本大会を運営してくださった四明会事務局の皆様と学生の有志の方々に深く感謝申し上げます。また来年もこの四明会ソフトボール大会で素晴らしい試合ができることを心待ちにしております。

(応用生命科学専攻 植物栄養学分野 修士一回生 西田 瑛絵)

## ソフトボール大会後記

平成28年度ソフトボール大会は、16チームの参加を得て、10月11日・12日・13日・18日・19日の5日間、昼休みに農学部グラウンドにおいて開催いたしました。

今年は、お天気に恵まれ予定通り無事に終了することができました。

試合は19日に決勝戦が行なわれ、「西田、スクワットやめるってよ」(応用生命科学専攻)が「食品どうでしょう?」(食品生物科学専攻)を4対1で破り優勝を飾りました。両チームとも日ごろの練習の成果を出し存分に楽しんでいました。

第三位は「URIQLOチーム」(応用生命科学専攻)と「白水会チーム」(生物資源経済学専攻)が入賞いたしました。特に「食品どうでしょう?」対「白水会」の準決勝戦で両方とも一歩も譲らず4対4でした。最後はジャンケンで決着しました。1人ジャンケンが終わるごとにすごい歓声があり、見ていてとても嬉しかったです。

決勝戦終了後表彰式が行なわれ、四明会副会長加納教授から優勝チームには四明会杯・賞状・記念品が、また準優勝及び第三位チームには賞状・記念品がそれぞれ授与されました。

今年も女性の活躍が目立ちました。ピッチャーとかファーストを守る人もいました。事務部の参加が得られ、年齢の高い職員の皆様も多いに楽しんだのではと思います。

最後に、本大会にご協力、ご支援下さった方々にお礼を申し上げます。

(事務局)

## 京都大学農学部平成29年度入学生保護者懇談会

4月7日の入学式当日の午後、北部総合教育研究棟益川ホールにて、第6回入学生保護者懇談会を開催いたしました。本懇談会は四明会が主催し、農学部新入生がガイダンスを受けている時間帯を利用し、保護者の方々を対象として、農学部の学生生活支援制度、留学制度、教育制度、就職状況、学生生活状況を講演会形式で紹介していただきました。今年は天気にも恵まれ、会場の椅子を全て出しても足りないほどの保護者の方（174名）にお集まりいただきました。

まず、農学部長・四明会会長 縄田栄治先生の挨拶に続き、「カリキュラムの特徴（奨学金、留学制度など含む）」（農学研究科副研究科長 裏出令子先生）、「卒業後の就職について」（学生総合支援センターキャリアサポートルーム室長・名誉教授 奥村正悟教授）、四明会の紹介を私、佐藤から説明し、最後に「教員からみた学生生活」（農学研究科副研究科長 村上章先生）についての講演をいただきました。最後に質疑応答の時間をもちました。現役演者は新入生のガイダンスとの掛け持ちで、分刻みの移動を余儀なくされましたが、盛会のうちに終了いたしました。会の終了後、四明会の入っております旧演習林事務室の建物付近を散策される方も多くいらっしゃいました。

いずれも保護者にとっても関心の高いテーマで、演者の先生方にはわかりやすく、また親しみやすくお話いただき大変リラックスした雰囲気の会になりました。参加者はメモを取る

方も多く熱心に聴講しておられました。昨年度と同様に、今年度も大変活発な保護者懇談会になりました。

参加者に対するアンケートの回答では、講演資料の配布の要望、また学生生活・研究内容等を視覚的に見たい等の要望もありましたが、非常にポジティブな意見が多く見受けられました。特に留学について保護者の関心が高いことが伺われました。また、学生に対する面倒見の良さに驚き、大学の印象が変わったというご意見もありました。またこのような懇談会を京都大学でも農学部だけが開催していることに対して称賛のコメントをいただきました。本保護者懇談会への参加された方の会費納付率は昨年同様高い割合でした。学生諸君が四明会に関心を持っていただくきっかけにもなり、有意義な会であったと考えます。演者の先生方、企画・実行して下さったスタッフの皆さんには心から感謝申し上げます。

現在、四明会はスポーツ大会等の行事を通じて現役学生間の交流を支援しています。今後は、農学部OB/OG、学生、教員、スタッフの交流をより一層支援するよう心掛けていくつもりです。昨年度から始まりました、就職、社会での活動、キャリアパスに関する農学部OB/OGと現役学生との懇談の場を提供できるよう本年度も考えております。また農学部・農学研究科出身者の同窓会等への支援も現在検討しています。

（四明会副会長 佐藤健司）

## 在学生の就職活動支援

平成28年度の常任委員会で、在学生の就職活動支援のため就職懇談会を開催することが決まりました。その後、現実的な視点で開催様式を模索しましたが、四明会側には複数回開催するだけの余裕がないこと等の問題点が判明しました。一方、農学研究科・農学部ではこれまで株式会社マイナビの協力を得て、各種就職情報を学生に配信・伝達し、また就職説明会を開催してきた実績がありました。そこで、農学研究科・農学部主催の懇談会、セミナー等の各種催しに、共同企画させていただくことになりました。

第一弾は平成29年2月5日（日）に「キャリア・就職懇談会」と題する懇談会を開催しました。農学研究科・農学部の卒業生OB・OG（つまり四明会会員）を招いて、業界・企業の特徴、働き方やキャリアについて在学生に語り掛けていただきました。来ていただいたのは農学専攻、応用生命科学専攻、地域環境科学専攻、農林経済学科の卒業生4名で、参加学生は学部3回生、修士1回生を中心に72名でした。

続く第二弾として平成29年7月1日（土）に「インターンシップ&業界・企業研究学内合同セミナー」と題して、理系学生のための就活スタートアップ講座と企業を招いての業界・企業

研究セミナーを開催しました。参加していただいた企業は8社で、本年3月に農学研究科を修了し就職3か月というOGの方も説明に来られていました。参加学生はこちらも学部3回生、修士1回生を中心に約170名でした。

今後このような催しを続けてまいりますので、会員の皆様にもご協力をお願いいたします。

（事務局）





## 平成28年度収支決算及び29年度予算

### 収 入 の 部

科 目	平成28年度収支決算		平成29年度収支 予 算 額
	予 算 額	決 算 額	
会 費	4,930,000 円	5,216,000 円	5,000,000 円
名簿売払代	1,800,000	1,404,000	90,000
広 告 料	1,500,000	1,400,000	0
V I S A 募 集 手 数 料	10,000	1,080	3,000
V I S A 提 携 手 数 料	360,000	291,505	300,000
預 金 利 息	2,000	73,868	30,000
寄 付 金 及 び 雑 収 入	5,000	22,500	5,000
小 計	8,607,000	8,408,953	5,428,000
前 年 度 繰 越 金	16,921,417	16,921,417	11,463,510
合 計	25,528,417	25,330,370	16,891,510

### 支 出 の 部

科 目	平成28年度収支決算		平成29年度収支 予 算 額
	予 算 額	決 算 額	
名簿印刷・製本費	3,000,000 円	3,084,480 円	0 円
名簿発送費	150,000	133,830	100,000
会報発送費	2,150,000	1,878,124	2,150,000
球技大会費	140,000	123,890	140,000
会 議 費	100,000	87,009	100,000
謝 金	30,000	40,000	50,000
通 信 費	100,000	67,242	100,000
消 耗 品 費	100,000	39,430	100,000
光熱水量及び借料	220,000	223,443	220,000
V I S A 等 手 数 料 等	220,000	180,026	200,000
備 品 費	200,000	25,000	200,000
人 件 費	3,100,000	3,121,548	3,100,000
雑 費	50,000	37,800	50,000
特 別 会 計 繰 入	0	5,000,000	0
小 計	9,560,000	14,041,822	6,510,000
次 年 度 繰 越	15,968,417	11,288,548	10,381,510
合 計	25,528,417	25,330,370	16,891,510

\*28年度予算額・決算額と29年度予算額と比較して大きく異なるのは28年度は名簿を発行する年に当たったことと、特別会計への繰入れがあったため。

## 農学部・農学研究科学生概要

### 1. 学生等数 (平成29年5月1日現在)

#### (1) 学部

学部学生				合計
1年次	2年次	3年次	4年次	
309	318	317	380	1,324

#### (2) 大学院

修士課程			博士後期課程				合計
1年次	2年次	計	1年次	2年次	3年次	計	
340	362	702	69	63	124	256	961

#### (3) 科目等履修生等

科目等履修生	特別聴講学生	科目等履修生(院)	特別聴講学生(院)	特別研究学生(院)	研究生(院)	研修員
12	3	3	2	6	12	7

### 2. 入学状況 (平成29年度)

#### (1) 学部

区分	入学定員	志願者数			入学者数		
		男	女	計	男	女	計
一般入試	—	441	253	694	193	97	290
特色入試	—	37	48	85	4	12	16
計	300	478	301	779	197	109	306

#### (2) 大学院

区分	入学定員	志願者数			入学者数		
		男	女	計	男	女	計
修士課程	303	278	127	405	220	100	320
博士後期課程	90	40	19	59	38	19	57

### 3. 入学試験合格者最高点・最低点(総点) (平成29年度・一般入試)

満点	最高点	最低点	平均点
1,050	843	630	682

### 4. 学部卒業者・大学院修了者・博士学位授与者数

#### (1) 学部卒業者数

区分	平成28年度	累計
旧制(昭和23~昭和29.3)	—	3,392
新制(昭和28.3以降)	317	19,954
合計	317	23,346

#### (2) 大学院修了者数

修士課程	
平成28年度	累計
321	9,995

#### (3) 博士学位授与者数

区分		平成28年度	累計
旧制		—	641
新制	博士課程修了者	55	2,236
	論文提出者	16	2,850
合計		71	5,727

5. 学部卒業者・大学院修了者等の産業別就職状況

(1) 学部 (平成29年3月卒業者)

産 業	区 分	学 部	
		男	女
製造業	農・林・漁業		
	鉱業・建設業		
	食料品・飲料・たばこ	3	
	繊維工業		
	印刷等		
	化学工業・石油	1	
	鉄鋼業・金属	1	
	機械・電気		1
その他	2		
サービス業	電力・ガス		
	情報通信業・運輸業	7	4
	卸売・小売業	3	
	金融・保険業	3	1
	学術研究、専門・技術	3	1
	宿泊・飲食業		
	その他		
教育	学校教育		
	学習支援業		
公務	国家公務	4	1
	地方公務	2	2
上記以外			
男子計		29	10
女子計			
総合計		39	

(2) 大学院 (平成28年度修了者・研究指導認定退学者)

産 業	区 分	修士課程		博士後期課程	
		男	女	男	女
製造業	農・林・漁業	1			
	鉱業・建設業	4	3		
	食料品・飲料・たばこ	28	24		
	繊維工業	2		4	1
	印刷等				
	化学工業・石油	28	15		
	鉄鋼業・金属			3	1
	機械・電気	14	7		
	その他	6	2		
サービス業	電力・ガス				
	情報通信業・運輸業	14	5	2	
	卸売・小売業	12	5	1	
	金融・保険業	24	5		
	学術研究、専門・技術	14	4	4	
	宿泊・飲食業				
	その他	6		2	
教育	学校教育	4	4	9	5
	学習支援業				1
公務	国家公務	5	4		
	地方公務	13	3		
上記以外		40	25	20	20
男子計		215	106	45	28
女子計					
総合計		321		73	

## 6. 国別留学生数

平成29年5月1日現在

国名	国費			私費			合計				
	学部学生	修士課程	博士課程	修士課程	博士課程	研究生等	学部学生	修士課程	博士課程	研究生等	合計
アフガニスタン					2			2	0	0	2
イタリア									0	0	0
イラン					1			1	0	0	1
インド			2						0	0	2
インドネシア			3		10	12		23	1	15	26
オーストラリア					1			1	0	0	1
カメルーン					1			1	0	0	1
カンボジア	1	1						0	0	0	2
ケニア	1	1			1			1	0	0	2
コロンビア						1		1	0	0	1
スペイン			1					0	0	0	1
スリランカ			2					0	0	0	2
タイ	1				3	1		4	0	1	5
タンザニア			1					0	0	0	1
ナイジェリア					2			2	0	0	2
ハイチ					1			1	0	0	1
パラグアイ					1			1	0	0	1
バンダラデイシユ	4	6				1		1	0	7	11
フィリピン			1			1		1	0	0	2
フランス						2		2	0	0	2
ベトナム			1		1	4		5	0	0	6
ベルギー					1			1	0	0	1
マダガスカル			1					0	0	0	1
マレーシア	1		3			1		1	1	4	5
ミャンマー		3			3	1		4	0	5	11
ラオス		1						0	0	0	1
英国								1	0	0	1
韓国	3			1	5	3		17	12	3	21
台湾					13	6		20	0	6	20
中国			4		34	23		74	10	34	78
米国					1			1	0	0	1
香港					1			1	0	0	1
総計	4	11	31	1	83	54	12	169	24	94	216

## 教 員 人 事

平成28年8月1日				
ARIFIN, Nurhayati Hadi Susilo	採用	森林科学専攻 緑地環境保全学講座 環境デザイン学分野		特定准教授
PRAVITASARI, Andrea Emma	採用	地域環境科学専攻 地域環境管理工学講座 農村計画学分野		特定助教
平成28年10月1日				
小川 剛伸	採用	食品生物科学専攻 食品生命科学講座 食環境学分野		助教
正岡 直也	採用	森林科学専攻 緑地環境保全学講座 山地保全学分野		特定助教
岩上 哲史	採用	農学専攻 耕地生態科学講座 雑草学分野		助教
平成28年12月1日				
ORMAN, Olga Joanna	採用	森林科学専攻 森林管理学講座 森林・人間関係学分野		特定助教
平成29年1月1日				
VILAYVONG, Khonesavanh	採用	地域環境科学専攻 地域環境開発工学講座 施設機能工学分野		特定助教
平成29年2月1日				
鍋島 朋之	採用	附属農場		助教
平成29年2月28日				
FEUER, Hart Nadav	辞職	学際融合教育研究推進センター スーパーグローバルコース人文社会系ユニット		特定助教
平成29年3月1日				
山根 久代	昇任	農学専攻 園芸科学講座 果樹園芸学分野		准教授
高橋 春弥	採用	食品生物科学専攻 食品健康科学講座 食品分子機能学分野		助教
FEUER, Hart Nadav	採用	生物資源経済学専攻 比較農史農学論講座 農学原論分野		特定講師
平成29年3月16日				
GOEL, Sandeep	採用	応用生物科学専攻 動物遺伝増殖学講座 生殖生物学分野		特定准教授
平成29年3月31日				
河井 崇	辞職	附属農場		助教
ORMAN, Olga Joanna	任期満了	森林科学専攻 森林管理学講座 森林・人間関係学分野		特定助教
日比 慎	任期満了	産業微生物学講座 (寄附)		特定准教授
吉田 嘉雄	任期満了	農林水産統計デジタルアーカイブ講座 (寄附)		特定准教授
池田 瑞穂	任期満了	農林水産統計デジタルアーカイブ講座 (寄附)		特定助教
新山 陽子	定年退職	生物資源経済学専攻 農企業経営情報学講座 農業食料組織経営学分野		教授
天野 洋	定年退職	地域環境科学専攻 生産生態科学講座 生態情報開発学分野		教授
安達 修二	定年退職	食品生物科学専攻 食品生産工学講座 農産製造学分野		教授
福井 昌夫	定年退職	応用生物科学専攻 植物保護科学講座 昆虫生理学分野		助教
平成29年4月1日				
縄田 栄治	併任	大学院農学研究科長・農学部長		
村上 章	併任	教育研究評議会評議員		
間合 絵里	採用	附属農場		特定助教
高田 守	採用	応用生物科学専攻 植物保護科学講座 昆虫生態学分野		特定助教
山口 幸三	採用	農林水産統計デジタルアーカイブ講座 (寄附)		特定准教授
平成29年5月1日				
三重 遷一	採用	農林水産統計デジタルアーカイブ講座 (寄附)		特定助教
平成29年6月1日				
大出 高弘	採用	応用生物科学専攻 植物保護科学講座 昆虫生理学分野		助教

## 京都大学農学部教育研究基金及び 京都大学農学研究科附属農場基金の 醸金・事業状況の報告

会員の皆様には平成28年度も両基金に多くの醸金を頂き、誠にありがとうございました。農学部教育研究基金は67件の寄付を頂いています。収支は下記の通りです。昨年度にお伝えした通り、大学院生の渡航援助を強化しており、在学中に少なくとも一度は海外での研究発表を経験してもらおうと旅費を支援しています。その結果、16名を国際研究集会等に派遣しています。また、その他、2名の留学支援を実施しました。「芦生（向山）維持管理費」は平成24年度に未来農業国際研究財団から寄付頂いた山林の維持のために使用しています。「国際交流室行事用」は、本研究科国際交流室が実施しています、留学生や外国人研究者のための様々な行事の実施補助に使用しています。

附属農場基金につきましても40件の寄付を頂きました。心からお礼を申し上げます。昨年度、移転は終了しましたが、今後、果樹が育ち自己収入が十分に得られるようになるまでには、暫く時間を要するようですし、施設・設備の充実もこれから時間をかけて進めていく必要があります。今後とも、皆様の支援をお願い致します。

本学ならびに本研究科・本学部がおかれている財政状況は厳しさを増すばかりです。そのような状況下で、皆様からご支援いただけるのは誠に心強く、大変ありがたく存じております。引き続き、強力なお力添えを賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

平成29年8月

京都大学農学部長・農学研究科長 縄田 栄治

### 農学部教育研究基金

収支（平成17～28年度）

年 度	寄 附 金		研究集会等派遣助成等		翌年度繰越額	備 考
	件数	金額（円）	件数	金額（円）		
平成17	370	10,339,000	—	—	10,339,000	平成17年12月1日、内規・運用規則裁定
平成18	207	4,833,360	2	400,000	14,772,360	
平成19	146	8,850,380	6	1,199,000	22,423,740	
平成20	115	4,493,300	5	920,000	25,997,040	
平成21	162	3,672,060	7	1,128,446	28,540,654	
平成22	96	2,445,100	6	907,000	30,078,754	
平成23	128	7,675,400	18	1,475,200	36,278,954	
平成24	104	62,991,807	14	1,200,000	98,070,761	
平成25	87	3,131,180	8	800,000	100,401,941	
平成26	58	2,007,114	14	1,250,000	101,159,055	
平成27	67	1,049,580	39	2,111,951	100,096,684	
平成28	67	3,559,360	66	3,657,650	99,998,394	
（累計）	1,607	115,047,641	185	15,049,247	99,998,394	

平成28年度執行内訳

事 項		金額（円）	備 考
支出	国際研究集会等参加助成金	1,400,000	詳細は下欄参照
	留学支援助成金	250,000	詳細は下欄参照
	芦生研究林（向山）維持管理費	100,000	
	国際交流室行事用経費	468,149	
	その他	1,321,986	新農場（木津）移転記念式典関係
		117,515	国際会議関係（カセサートシンポジウム等）
	計	3,657,650	

国際研究集会参加助成金内訳

氏名	学年	研究集会名	金額(円)	派遣先
大谷 遥	修士2回生	果樹に関する生殖生理学と自家不和合性に関するISHS国際ワークショップ	100,000	スペイン
GEEKIYANAGE DON ANURASIRI NALAKA	博士2回生	アジアの保全2016	50,000	シンガポール
林 将文	修士1回生	第18回国際家畜繁殖学会	100,000	フランス
廖 秋紅/リャオ チウホン	博士2回生	4th CIGR International Conference of Agricultural Engineering	100,000	デンマーク
MD. MIZANUR RAHMAN	博士1回生	マングローブとマクロベントス会議	100,000	アメリカ合衆国
TSENG, YI-TING	修士2回生	第6回大気生物学ヨーロッパシンポジウム	100,000	フランス
松田 壮顕	修士1回生	第6回大気生物学ヨーロッパシンポジウム	100,000	フランス
岩橋 涼	博士3回生	XIV World Congress of Rural Sociology	100,000	カナダ
牧野 裕樹	修士2回生	7th International Crop Science Congress	50,000	中華人民共和国
宮下 英理子	修士2回生	XVIth EUCARPIA Capsicum and Eggplant Working Group Meeting	100,000	ハンガリー
KHOIRUL HIMMI SETIAWAN	博士3回生	国際昆虫学会2016 IEC 2016,XXV International Congress of Entomology	100,000	アメリカ合衆国
IKHSAN GUSWENRIVO	博士2回生	国際昆虫学会2016 IEC 2016,XXV International Congress of Entomology	100,000	アメリカ合衆国
渡辺 祐基	博士2回生	国際昆虫学会2016 IEC 2016,XXV International Congress of Entomology	100,000	アメリカ合衆国
PHYU PHYU LWIN	博士2回生	IUFRO International and Multi-disciplinary Scientific Conference Forest-related policy and governance	50,000	インドネシア
吉田 裕史	博士1回生	29th Fungal Genetics Conference	100,000	アメリカ合衆国
北村 友佳	修士2回生	第7回アジア太平洋生殖医学会	50,000	マレーシア
		計	1,400,000	

留学助成支援金内訳

氏名	学年	事項	金額(円)	派遣先
大迫 祐太郎	修士1回生	部局間交流協定校(国立台湾大学)への派遣	70,000	台湾
石川 凜	学部3回生	部局間交流協定校(ケンタッキー大学)への派遣	180,000	アメリカ合衆国
		計	250,000	

平成28年度入金者一覧

(五十音順)

相川 哲	鎌田 ゆかり	高橋 強	福永 拓也
赤松 美紀	川口 儀八良	都築 道和	藤田 稔夫
浅沼 善次郎	川島 良治	堤 利夫	藤原 良一
池田 昇司	久馬 一剛	坪井 助仁	古瀬 浩介
石井 健司	日下部 眞一	寺中 吉造	堀江 大輔
石永 正隆	河内 英一	栃原 邦匡	松本 満夫
伊藤 あすか	河野 慎吉	永島 晃治	水野 雅之
伊藤 伸子	小谷 明司	永野 由祐	宮川 恒
井上 樹芳	児玉 ほづえ	仲矢 順子	村井 耕二
井村 周一	小西 広顕	西田 律夫	八木 滋雄
上原 章敬	小山 孝次	西村 一三	山田 紘士
種田 あずさ	小山 洋一	野口 修	山本 卓也
太田 泰彦	齋藤 健	野下 浩二	鷲尾 春一
岡松 直勝	佐々木 義之	橋本 秀雄	匿名
小川 浩史	佐野 修司	林 長史	
片山 保志	高木 宏	治多 伸介	
金田 司	高田 長武	平井 伸博	

以上65名

※複数回入金された方がいますので、件数と入金者数は一致していません。

## 農学研究科附属農場基金

収支（平成25～28年度）

年 度	寄 附 金		研究集会等派遣助成等		翌年度繰越額	備 考
	件数	金額（円）	件数	金額（円）		
平成25	97	3,773,000	0	0	3,773,000	
平成26	66	1,520,960	0	0	5,293,960	
平成27	62	1,176,000	2	2,069,280	4,400,680	
平成28	40	813,400	0	0	5,214,080	
（累計）	265	7,283,360	2	2,069,280	5,214,080	

平成28年度執行内訳

事 項	金額(円)	備考
支出	0	
計	0	

平成28年度入金者一覧

（五十音順）

赤松 美紀	小川 浩史	白井 清司	野下 浩二
石井 健司	片山 保志	高木 敏彦	平井 伸博
石田 三雄	鎌田 ゆかり	高橋 強	備仲 康行
伊藤 あすか	亀田 宗三	鉄村 琢哉	福永 拓也
伊藤 七郎	川島 良治	寺島 勉	福村 武一
位田 晴久	久馬 一剛	栃原 邦匡	堀江 大輔
上原 章敬	日下部 眞一	永野 由祐	宮川 恒
江角 智也	小谷 明司	西田 律夫	邑本 太一
太田 泰彦	小山 孝次	西村 一三	森本 茂俊
岡本 恭二	佐野 修司	野口 修	山本 卓也

以上40名



旧演習林事務室（農学部四明会事務局）  
（有形文化財）



# 第12回 京都大学ホームカミングデイ

## テーマ “創”

京都大学ホームカミングデイは、年に一度の、京都大学に関わる全ての方々との交流イベントです。卒業生の方は、同窓生、恩師と交流を深めていただき、一般の方々には、京都大学について知っていただく場となっています。現在と未来を考える機会を持ち、変わらぬ愛校心を育んでいくことを目的としています。

【日時】平成29年11月3日(金・祝)

【場所】京都大学百周年時計台記念館等

◆講演会 10:00～ ※事前申込  
・講師：陶芸家 樂 吉左衛門  
・パネルディスカッション

◆京料理を味わう 12:00～ ※事前申込、抽選200名  
「竹茂楼」による特別弁当 料金：3,600円事前振込  
京都大学ジャズ研究会「Off-Beat」によるジャズ演奏



撮影：畠山 崇

### ー 同日イベント情報 ー

◆クスノキ屋台村 11:00～17:00

時計台前庭のクスノキを中心に飲食のブースや  
ステージを展開

◆音楽会

京都大学交響楽団による演奏 13:15～13:55

京都大学合唱団OB・OGによる合唱 14:15～14:45

◆総合博物館、尊攘堂、附属図書館等見学  
10:00～16:00

◆卒業生×在学生 交流イベント 13:30～16:45

※事前申込、抽選180名

場所：百周年時計台記念館

◆清風荘見学

※事前申込、各回40名限定

①13:00～14:00 ②14:00～15:00 ③15:00～16:00

◆スタンプラリーも予定しております！



京都大学同窓会事務局

〒606-8501 京都市左京区吉田本町  
京都大学総務部渉外課内  
電話：075-753-2029・5563  
FAX：075-753-2286  
E-mail：alumni@www.adm.kyoto-u.ac.jp

※上記の情報は変更になる場合がございます。

8月下旬に京都大学同窓会HP・Facebookに  
詳細を掲載予定です。

事前申込は、↓こちらの同窓会HPから(8月下旬予定)

◆京都大学同窓会HP  
<http://hp.alumni.kyoto-u.ac.jp/>

◆京都大学同窓会Facebook  
<http://www.facebook.com/KyodaiAlumni>

(京都大学基金のパンフレットを同封していますのでご覧ください)

# 京都大学農学部四明會会則 (平成20年4月17日 一部改正)

## 第1章 総 則

- 第1条 本会は、京都大学農学部四明會と称する。
- 第2条 本会は、会員相互の連絡を密にし、親睦をはかることを目的とする。
- 第3条 本会は、その目的を達成するため名簿の発行、その他必要な事業を行う。

## 第2章 会 員

- 第4条 京都大学農学部（以下「農学部」という。）の卒業生及び京都大学大学院農学研究科（以下「農学研究科」という。）修士課程修了者、または博士後期課程修了者（研究指導認定退学者を含む）を本会の正会員とする。
- 2 農学部・農学研究科の現教員及び旧教官、現職員、学生、並びに農学部・農学研究科に特別な関係を持つもので役員会が承認したものを特別会員とする。ただし正会員であるものは除く。
- 3 特別会員はこの会則に関して正会員について特に定める事項を除き正会員と同等とする。

## 第3章 役 員

- 第5条 本会に次の役員をおく。  
会長1名 副会長1名 監事2名  
常任委員6名以上 委員10名以上
- 第6条 常任委員は農学研究科の各専攻から推薦された教員について役員会で決定する。
- 2 委員は各同窓会単位ごとに正会員または特別会員の内から推薦を受け、役員会において決定する。
- 3 会長が役員を必要とするときは、候補者を推薦し、役員会で決定する。
- 第7条 会長は農学部長をもってあてる。
- 2 副会長は常任委員の内から、監事は委員の内からそれぞれ役員会において互選する。
- 第8条 常任委員及び委員の任期は1年とし4月に交代するものとする。ただし留任はさまたげない。
- 第9条 会長は本会を代表し会務を統括する。  
副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときはこれに代わる。  
常任委員は会務を分掌し、監事は財務を監査する。
- 第10条 本会に顧問をおくことができる。  
なお、会長は必要に応じて顧問を役員会に出席させることができる。

## 第4章 役 員 会

- 第11条 役員は役員会を組織し本会の運営に関する重要事項を審議決定する。
- 第12条 次の事項は役員会の議決を要する。
- 1 事業計画
  - 2 予算及び決算に関する事項
  - 3 基本財産に関する事項
  - 4 会費に関する事項
  - 5 寄付金その他収入に関する事項
  - 6 会則の変更
- 第13条 定期役員会は毎年4月に開くものとする。ただし必要に応じ臨時役員会を開くことができる。
- 第14条 役員はその1/3以上の同意により臨時役員会を請求することができる。
- 第15条 役員会は役員の過半数の出席により成立し議事は出席役員の過半数により決定する。ただし可否同数の場合は議長が決定する。
- 2 会則の変更は出席役員の2/3以上の賛成により決定する。
- 第16条 役員会は会長が招集し、議長になる。
- 2 役員会の事務は事務局長が処理する。
- 第17条 会長は必要に応じ常任委員会を開く。常任委員会は会長、副会長、常任委員及び事務局長により組織し本会の業務の執行に関し必要な事項を審議決定する。

## 第5章 会 計

- 第18条 本会の経費は会費及び寄附金その他の収入をあてる。
- 第19条 会費は会員から徴収する。
- 第20条 本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

## 第6章 事 務 局

- 第21条 本会の事務局は農学部内におく。
- 第22条 事務局には事務局長1名、事務職員若干名をおく。
- 第23条 事務局長及び事務職員は会長の指揮を受け事務を処理する。

- 附 則 この会則は昭和46年4月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成11年4月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成18年5月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成20年5月1日より施行する。

## 平成29年度四明會役員名簿

会 長 縄田 栄治  
副 会 長 佐藤 健司  
監 事 荒井 修亮  
〃 籙瀬 佳之

### 常任委員

農 学 専 攻 土井 元章  
森 林 科 学 専 攻 小杉賢一朗  
応 用 生 命 科 学 専 攻 喜多 恵子  
応 用 生 物 科 学 専 攻 佐藤 健司  
地 域 環 境 科 学 専 攻 飯田 訓久 (総務)  
生 物 資 源 経 済 学 専 攻 小田 滋晃  
食 品 生 物 科 学 専 攻 保川 清

### 委 員

農 学 科 赤木 剛士  
林 学 科 中川 光  
農 芸 化 学 科 阪井 康能  
農 林 生 物 学 科 海道 真典  
農 業 工 学 科 川島 茂人  
農 林 経 済 学 科 中川聰七郎  
水 産 学 科 荒井 修亮  
林 産 工 学 科 籙瀬 佳之  
食 品 工 学 科 後藤 剛  
畜 産 学 科 舟場 正幸  
熱 帯 農 学 専 攻 樋口 浩和

### 顧 問 奥村 晃弘

〃 一井 信吾

四明会事務局 沖田 義孝

〃 三田 久子

### ◎事務局より

事務局では名簿の隔年発行(今年は非発行年にあたります。次号は平成30年11月に発行予定)以外に下記の業務も行っておりますので、お気軽にお申し付けください。

○「培根会(農学部・農学研究科を退官された先生方の懇談会)」  
新年会を含め年3回(4月(観桜会)・10月(観月会)・1月(新年会))小宴を催します。  
なお、今年度から納涼会は取りやめとなりました。

○「卒業50周年記念同期生会」の開催  
京都大学ホームカミングディ(原則11月第1土曜日)の前日に「農学部卒業50周年記念同期生会」を開催しています。  
今年はホームカミングディが11月3日(金)のため、11月2日(木)に昭和42年卒業生の方々の集いを予定しています。該当される方々への詳細なご案内を9月下旬にお送りさせていただきます。

○「四明会ソフトボール大会」の開催  
毎年10月中旬に「農学部グラウンド」において農学部・農学研究科学生及び教職員による親善ソフトボール大会を行っています。

○「入学生保護者懇談会」の開催  
平成24年度から入学式当日に開催しており、保護者の皆様からは好評を得ています。

○「在学生の就職活動支援のための懇談会・セミナー」の開催  
在学生の就職活動の一環として、平成29年2月5日に農学部/

農学研究科と共催で初めて開催しました。今後も引き続き開催する予定です。

○「京都大学農学部四明会 VISAカード」  
現在約500名の方がご利用されていますので、この機会に是非お申し込み下さい。事務局にご一報下されば資料等をお送りいたします。

○農学部創立100周年記念事業への資料等提供  
農学部創立100周年記念事業(2023年)にむけて、昔の農学部の校舎や行事の写真等関連の資料を収集しています。お持ちの方で、提供していただける方は、ご一報いただければ幸いです。

○「四明会たより」はホームページにも掲載  
ホームページ <http://www.shimeikai.kais.kyoto-u.ac.jp/>

○絵ハガキの贈呈について  
一昨年作成しました、名誉教授上野民夫氏がお描きになった水彩画(5枚1組)の絵ハガキをご希望の方に贈呈します。(アートポストカラーでの仕上がります)  
農学部関連施設をスケッチしたものです。  
会費納入者に限りご希望の方に無料配付します。申し込み方法は、封書で返信用封筒(切手82円貼る)を同封のうえ四明会事務局へ申し込んで下さい。

なお、京都大学農学部四明会のホームページでカラー版が閲覧できます。



Faculty/Graduate School of  
**AGRICULTURE**  
KYOTO UNIVERSITY



京都大学  
農学研究科・農学部

## 農学研究科・農学部ロゴマーク

農学研究科では、「生命・食料・環境」を合言葉に、21世紀のさまざまな重要課題に取り組む、総合力と国際性豊かな「京都大学農学研究科・農学部」にふさわしいロゴマークを製作することとなり、平成29年5月25日に制定しました。

### ロゴマーク制定の経緯

平成29年1月11日からロゴマークを公募し、平成29年3月10日に公募を締め切りました。

応募作品について、農学研究科・農学部所属教職員・学生におけるWEB投票（平成29年3月13日～3月22日正午）により、採用作品を決定しました。

作者 岡 涼平 様 京都大学経済学部1回生（応募当時）

### コンセプト

「生命の維持に不可欠な水、土と太陽、そして日本人の食の象徴である米を配した。環境を語る上で欠かせない樹木は京大のシンボルである楠をモチーフとした。これらは京大農学部の持つ多様な可能性を表している。

昨今のロゴのフラット化が進む傾向に沿って、あえて立体感をなくし、様々な媒体（印刷物やwebページ）でも見やすいモダンなデザインを目指した。

織部という伝統色を一色のみ使うことにより、京都らしさと和を表現した。」

欧文、和文、和文+欧文、省スペースタイプ、シンボルマークのみ（カラー / モノトーン）各種制定しています。

詳細は農学研究科等総務掛までお問い合わせください。

Tel : 075-753-6004 E-mail : agri-soumu2@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

四明会たより（平成29年8月発行）

京都大学農学部四明會

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

Tel/Fax 075-753-6030

メールアドレス shimei@kais.kyoto-u.ac.jp

ホームページ <http://www.shimeikai.kais.kyoto-u.ac.jp/>